



味舌下村はたびたび洪水に悩まされる低地の村で、沢良宜川の河道をずらすことで被害を減らす狙いがあったと考えられます。

なお、防領川は、江戸時代の絵図では「ほうりう川」「ほうりやう川」のように平仮名で記載されることが多く、漢字表記の場合は「法量川」「坊領川」です。「防領川」の表記が一般的になるのは、明治時代以降のようです。

#### ◆正尺川（正雀川）の変流

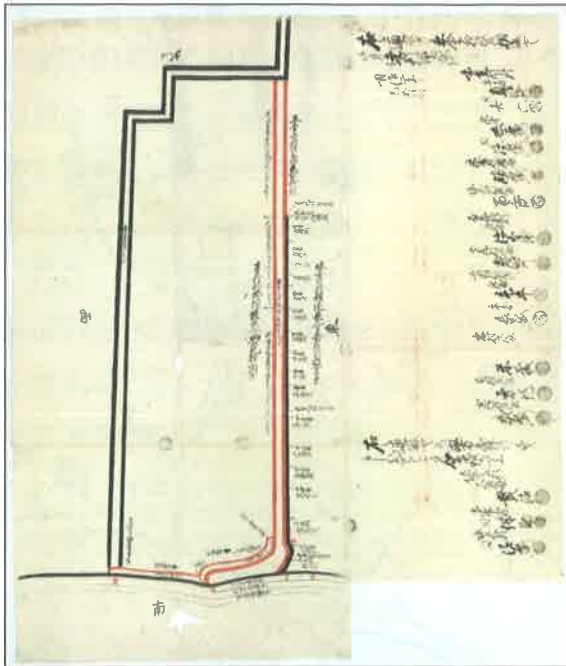


図3 正尺川付け替え規定書の付図(久富家文書、明治2年5月)  
図の上が北、実際には真北ではなく西に33度傾いている。

正雀川と言えば、摂津市と吹田市の境界線をなす河川というイメージがあるかもしれませんが。正雀川は本来「正尺川」という表記で、「正雀川」になったのは、昭和2年(1927)の新京阪(現阪急)正雀駅開設以降です。

さてこの正尺川の流路ですが、かつては正音寺村の脇まで南下したあと西へ逸れ、岸部東村の田地の間を通過して悪水井路に落ちていました(【図1】ピンク破線)。現在の位置に付け替えられたのは、明治2年(1869)のことです。味舌下村は、すでに17世紀半ばには、岸部東村との境界のすぐ内側に排水用の井路(明治12年味舌下村「村誌」では西溝と呼称)を通しており、正尺川の新河道はこの井路の西側に沿うように設計されました。

同年5月付の規定書では、新河道は水幅1間半(約3m)であること、岸部郷5か村は味舌下村領境の井路の片側堤312間6匁7厘(約600m)を新河道の堤防として借り受ける

こと、正音寺村領にかかる長さ113間(約220m)の堤防や流末に設ける新たな伏越樋については岸部郷が普請を行うことなどが定められました(久富家文書)。

規定書と同時に作成された絵図【図3】には、従来の堤防が太い黒線で、新しく築造する堤防が朱線ありきたるで描かれています。画面左を黒線に挟まれて流れる「有来正尺イジ」(旧正尺川)が、右の朱線内の「新正尺井路」(新正尺川)の位置に付け替えられた訳です。新正尺川の右側に途中から沿う黒線は、味舌下村の井路の堤防にあたります。

ところで、現在の地図をよく見ると、正雀川の河道自体は吹田市域を通過しており、摂津市との境界は、阪急電鉄の線路以北では川の東側の道路に、以南では川沿いの水路になっています。江戸時代の村明細帳や明治時代の村誌でも、味舌郷内を流れる川には正尺川を含んでおらず、例えば天保14年(1843)の味舌上村明細帳には、正尺川“東堤”が小池(市場池=大池の西隣にかつてあった池)の大樋から庄屋村領境まで続いていて、小池大樋は正尺川から取水しているといったことだけが記載されています(『摂津市史』史料編2、関西大学図書館所蔵文書)。こうした当時の認識が、今もなお影響を与え続けていると言えるでしょう。

(片山早紀)

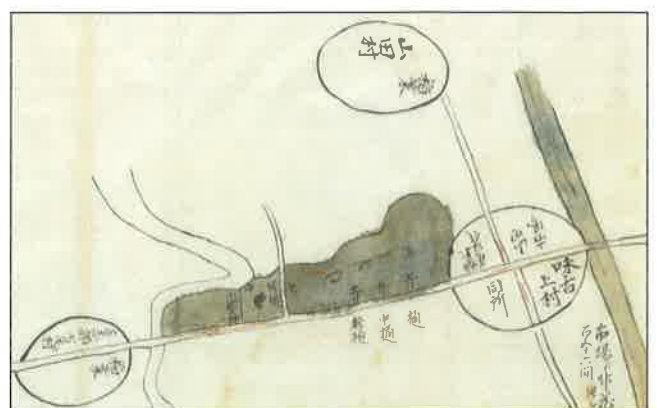


図4 味舌上村の大池・小池(太田家文書「味舌郷絵図」、江戸時代、部分)  
細い道を挟んで右が大池(市場池)、左が小池。  
小池の上で大きく湾曲しながら正尺川が流れる。





同年11月26日の起工式で読み上げられた大阪府農業技手上村敏行の計画概要によれば、「抑本整理地区施行ノ目的ハ、乾田ニ対シ自然灌漑ヲ得セシメ、遠キ湿田ニ向ヒテハ運搬上ノ便ヲ執ラシムルヲ以テ主要事業ナリトス」とあり、灌漑排水の自由と交通運搬の利便化が主眼で、そのための区画形状整齊と水路開削だったことが分かります。湿田の乾田化というよりは、湿田・乾田それぞれに適した環境を整備する工事だったのでしょう（大西家文書）。

淀川沿いの住宅地の北側を西流する水路を本渠とし、南北方面は120間ごと、東西方向は60間ごとに水路が引かれました。【図2】中で細い水路が通っている区域が乾田、それ以外が湿田に該当します（田橋家文書「小作宛米帳」、摂津市所蔵「一津屋村字分図」）。耕地整理事業自体は大正11年（1922）まで継続しますが、区画整理と水路開削はわずか数ヶ月で竣工し、はやくも明治43年5月1日には竣工式が催されました（大西家文書）。

その後耕地整理組合から事業区域内の字名変更が申請され、明治44年4月に大阪府と味生村会において承認されます。これにともない小字は大きく異動することとなり、以前の字名や配置をある程度残しつつも、現在の一津屋の景観の原型となる整然としたすがたに変貌しました。古くからの家並みが残る住宅地と、近代的に整備された農地の対比があざやかです。（片山早紀）

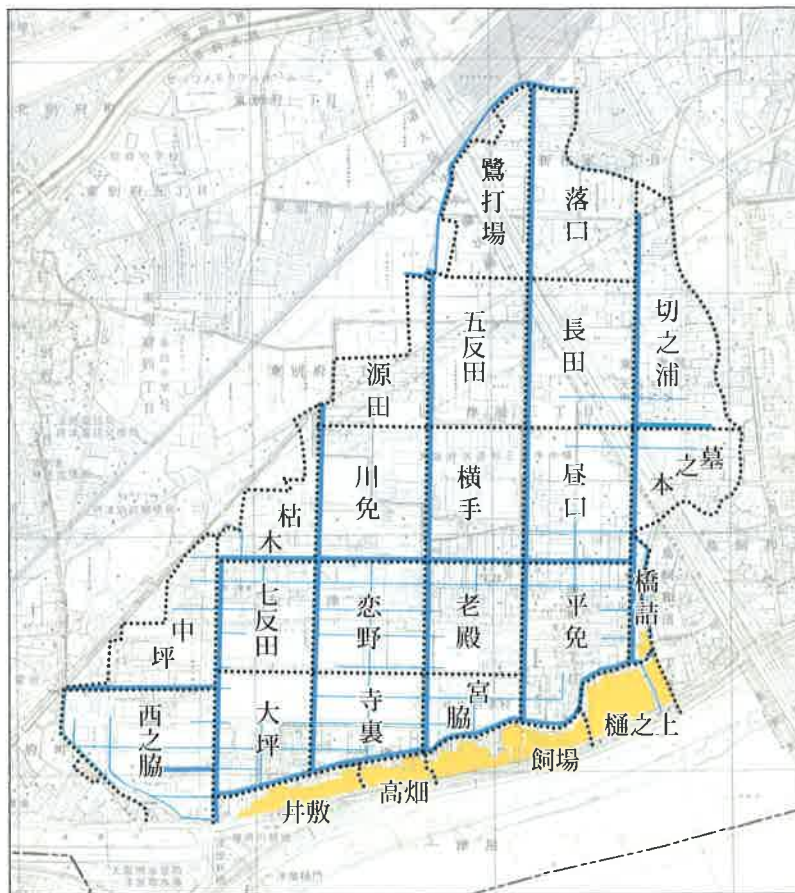


図2 耕地整理後の一津屋  
青色は水路、黄色は住宅地・寺地をそれぞれあらわす



## 『新修摂津市史 史料と研究』第3号

好評発売中!

《史料》淀川流域関係史料集Ⅰ 伝承の時代～康平5年(1062)

史料解説：市大樹「古代淀川流域の動向」

《論稿》佐藤健太郎「古代淀川の治水と水害」

A5判 302頁 販売価格900円

販売場所 摂津市民図書館2階 市史編さん室

Tel 06-6319-0587 (平日火～金曜、9～17時開室)

摂津市役所6階 教育総務部生涯学習課

「淀川流域関係史料集Ⅱ」を掲載した第4号を今春刊行予定です